

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 日本語教育研究所

1 事業の趣旨・目的

生活日本語レベルの外国人を日本語で仕事ができるレベルにするには、何が必要なのか。生活日本語指導との違い、日本の企業文化なども含めて、日本語を使って働きたい外国人をサポートできる指導者を養成する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月4日 18時～20時	浅松ビル1階 会議室	上野 田鶴子 春原 憲一郎 柳澤 好昭 田中 久光 八若 壽美子 武田 聡子 西上 鈴江	今年度の運営について、昨年度からの変更点などの説明、確認	受講者募集方法、講義内容は昨年度と同じとする。回数は全16回にする代わりに、1回の講義時間を30分延長して2時間半とすることなどを決定。
11月25日 18時～20時	浅松ビル1階 会議室	上野 田鶴子 柳澤 好昭 八若 壽美子 齋藤伸子 長崎清美 武田 聡子 西上 鈴江	修了証発行条件について検討 文化庁HP掲載内容について確認	契約書の確認。 今年度は講義の欠席の多い受講者もいたため、修了証発行条件について検討。欠席した講義のDVDを見に来ていても、出席扱いにはしないことを決定。 文化庁HP掲載する内容について、支障がないかどうか確認。

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 「日本語で働くサポーター養成講座（日曜コース）」
- (2) 目標 生活日本語指導との違い、日本の企業文化なども含めて、日本語を使って働きたい外国人をサポートできる指導者を養成する。
- (3) 受講者の総数 10 人（出身・国籍別内訳 日本 10 人）
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間 （ 16 回 ）
- (5) 参加対象者の要件 日本語教育未経験、もしくは経験の浅い人。

(6) 受講者の募集方法 日本語教育研究所の会員向けメールマガジンにて募集。

(7) 会場 浅松ビル 1 階会議室

(8) 使用した教材・リソース プリント

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8 月 7 日	「グローバルゼーションと日本語教育」について講義、ディスカッション	山田 泉 法政大学教授	9 人
8 月 21 日	日本語と国語の違い 講義	柳澤 好昭 明海大学外国語学部日本語学科教授	8 人
8 月 28 日	ビジネス日本語の伸ばし方 講義	田中 則明 心弦社 代表	10 人
9 月 4 日	サポーターとしての自律 講義	齋藤 伸子 桜美林大学教授	9 人
9 月 11 日	日本語学習のためのスタンダード 講義	金田 泰明 株式会社 凡人社 顧問・開発担当	10 人
9 月 18 日	日本語教育から見たサポーターの役割 講義	八若 壽美子 茨城大学留学生センター 教授	8 人
9 月 25 日	ビジネスマナーの教え方 講義、実習	山下 直美 株式会社メディカルスターツ 講師	10 人
10 月 2 日	地球規模でのひとの移動とビジネス日本語 講義	春原 憲一郎 (財) 海外技術者研修協会 AOTS 日本語教育センター長、日本語教育学会理事	9 人
10 月 9 日	仕事に生かせる日本語指導の実際 講義	小山 暁子 フリー日本語教師	10 人

10月16日	企業の求める日本語 研修 講義	工藤 尚美 株式会社オリジネーター 取締役 専務執行役員	9人
10月30日	中上級レベルの日本語 指導について 講 義	浅野 陽子 創作集団にほんご代表	9人
11月6日	日本語で働く外国人 に必要なサポートと は	Mugdha Yardi 信頼コンサルティング コンサルタント	9人
11月13日	会社内異文化摩擦を 乗り越えるには 講 義、ワークショップ	鈴木 有香 早稲田大学 紛争交渉研 究所客員研究員	9人
11月20日	コーチが使うよりよ い関係を築くための アプローチとスキル 講義、ワークショッ プ	藤生 あゆみ 米国 NLP 協会認定 NLP マ スタープラクティショナ ー・生涯学習開発財団認 定コーチ	9人
11月27日	学習者一人ひとりの 生活と日本語学習 講義、ワークショッ プ	林 さと子 津田塾大学教授	10人
12月4日	日本語で働く外国人 のためのサポーター とは 講義	上野 田鶴子 元東京女子大学教授/日 本語教育研究所 理事長	9人

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

別紙参照

②実施主体からの研修内容結果評価

昨年度と同様のコースであったため、昨年度の受講者から勧められて応募した受講者もいた。今年度は、実際に日本語を使って日本で仕事をしている外国人を講師に迎えるなど、よりコースの目的に沿った内容になった。講座終了後には多くの受講者より「サポーターとして何が 필요한のかが分かったという」「この研修で学んだことをサポーターとしての活動に生かしていきたい」というフィードバックがあり、研修の目的は達せられたといえるだろう。

毎回、さまざまな分野からの講師による、理論・実践面での講義が繰り広げられた。「予想以上に幅広い内容だった」という声も聞かれた。いわゆる養成講座とは違い、

現場の声が聞こえてくる講座となったのがこうした評価につながったようだ。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

生活日本語レベルの外国人を日本語で仕事ができるレベルにするための日本語レッスン、また、こうした指導者を育成するための講座を継続的に続けていく予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・現在、本研究所で実施中の企業研修等に、卒業生を積極的に取り込む。
- ・本研修で好評を得た講座については、さらに発展した講座を計画する。

② 研修後の人材活用

昨年度のこの講座の修了生を、今年度、本研究所で実施中の企業研修等に、取り込んでいくことができた。また、受講生が各地でそれまで行っていた地域のボランティア活動などに、この研修の内容が活かされている。今後、一層幅広く取り込んでいきたい。

(12) 今後の課題

講座修了生の能力をどう生かしていくか、また今後も修了生をどうフォローしていくか、十分に検討していきたい。